

# 40年超原発安全対策評価

## 県専門委 報告書案を了承

有識者でつくる県原子力安全専門委員会が九日、県庁で会合を開き、関西電力が運転開始から四十年を超えて再稼働を目指す美浜原発3号機（美浜町）と高浜原発1、2号機（高浜町）について、「必要な対策が講じられている」と評価する報告書案を大筋で了承した。今後、文面の調整などを経て杉本達治知事に報告書を出す。――関連②面

（今井智文）

杉本知事は再稼働に同意するか判断する際に、専門委の見解を参考にするといい姿勢を見せている。報告書は県議会が今後、同意を議論する上でも重要な材料となる見通し。

会合では事務局の県原子力安全対策課の担当者が報告書案を説明。四十年超運転で懸念される原子炉の劣化や施設の老朽化などの問

題について、関電による点検結果や機器の交換、今後の対応方針などを確認したとし、「ハード、ソフト両面から改善が図られている」と結論づけた。

出席者のうち田島俊彦委員（県立大名誉教授）は「対策が向上したことは認められるが、老朽化した配管などはどんな危険性が眠っているか分からない」と

改めて指摘。使用済み核燃料の搬出先やテロ対策など問題は残るとして「動かすべきでない」と主張した。

一方、他の委員からは「（報告書は）運転を了承するものではない」「今考えられるリスクに対しては、工学的に安全対策がなされている」などの意見があり、最終的には文言の調

整を含め対応を鞍谷文保委員長（福井大教授）に一任すること一致した。

鞍谷委員長は会合後の取材に「最終的には各委員の了承を得て最終的な報告書にしたい」と話した。三基のうち、安全対策工事が続いている高浜2号機については、報告書確定後も専門委で現場の確認を行う方針。

専門委は二〇一六（平成二十八）年から三基の安全対策の実施状況などを審査。今年二月には二回の視察を実施し、美浜、高浜原発を現場確認した。